



JICの活動の進捗、今後の方向性

2025年7月31日

株式会社 産業革新投資機構
Japan Investment Corporation

JIC



株式会社産業革新投資機構

- 株式会社 産業革新投資機構（JIC : Japan Investment Corporation）は、2018年9月に、産業競争力強化法に基づき、オープンイノベーションを通じた産業競争力の強化と民間投資の拡大という政策目的の実現に寄与するべく、発足した投資会社。
- JICは、傘下のファンドや民間ファンドへの投資を通じ、政策的に意義のある事業分野へのリスクマネーを供給。
- 2024年6月の産業競争力強化法改正により、**JICの運用期限が2050年3月末まで延長。2050年を見据え、中長期的な視点で、日本のリスクマネーを巡るエコシステムの成長・発展のために役割を果たしていく。**

JICグループ



株式会社INCJ（設立:2018年9月）

既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足。
産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的とした投資活動を行う。



JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社（設立:2020年7月）

ベンチャー・グロース投資活動により我が国のイノベーションを促進し国際競争力の向上に寄与。産業及び社会課題の解決を目指す。



JICキャピタル株式会社（設立:2020年9月）

国内投資・イノベーションの好循環創出、国際競争力強化に向けた事業再編の促進、デジタルトランスフォーメーション（DX）促進をはじめとした次世代社会基盤の構築に向けたリスクマネー供給を担う。

- 新投資基準では、これまでの分野を包含しつつ、重点投資4分野が再構成され、具体的な産業分野の例示が追加されるとともに、対象として中堅企業が明示されている。

重点投資分野



国内投資・ イノベーションの 好循環創出

我が国産業の国際競争力強化に向けて、持続的な成長が必要であり、長期かつ大規模なリスクマネー供給を必要とする事業分野であって、国内投資及びイノベーションの好循環に資する事業活動を支援



スタートアップの 創出・育成

経済成長とイノベーションの担い手であるスタートアップの創出・育成の加速及びグローバルユニコーンの創出に向けて、スタートアップエコシステムの発展促進に資する事業者を支援



地方に眠る 経営資源の活用

高い収益やイノベーションの創出が期待できる技術が多数あるにもかかわらず、リスクマネー不足や人材確保等の課題から、十分に活用されていない地方の大学発スタートアップや中堅企業等の資金需要に対応

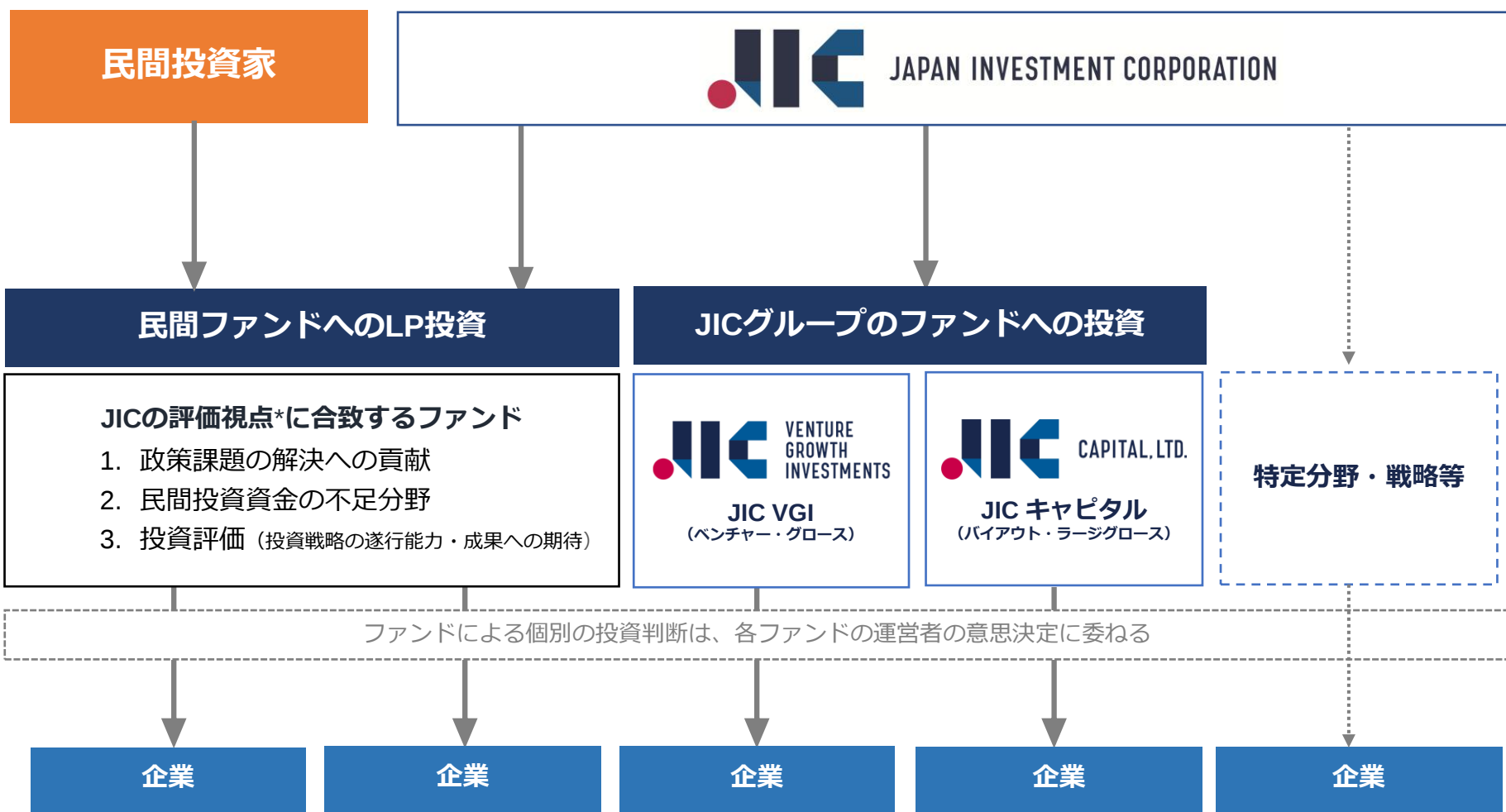


市場・ビジネス環境の 変化に対応する 事業再編の促進

昨今のビジネス環境の変化に事業再編や新陳代謝を通じて対応することができる事業分野において、中長期の成長投資や業界再編等を通じて産業競争力の強化を支援

我が国におけるオープンイノベーションを推進し、
我が国産業の競争力強化に貢献

- JIC本体は、原則、ファンドへの投資を行い、JICグループのJIC VGI、JIC キャピタルが企業等に対する投資を行う体制。



*上記視点に加えて、募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

- 2019年以来、JICが、民間ファンドとグループ子会社2社（JIC VGI、JICキャピタル）のファンドに対し、累計約1兆7,093億円の出資約束を行う。（2025年3月末現在）
- 2024年度は、10ファンドへ合計574億円の出資約束をし、初めてエンゲージメントファンドにも出資約束を実施。



JAPAN INVESTMENT CORPORATION

民間ファンド

ファンド数 : 48
出資約束総額 : 2,493億円

戦略	ファンド数	出資約束額
VC	45	1,903億円
PE・その他	3	590億円



VENTURE
GROWTH
INVESTMENTS

JIC VGI
(ベンチャー・グロース)

1号 : 1,200億円 (20年9月設定)
2号 : 2,000億円 (23年1月設定)
オポチュニティファンド : 400億円 (23年9月設定)



CAPITAL, LTD.

JIC キャピタル
(バイアウト・ラージグロース)

1号 : 2,000億円 (20年11月設定)
共同投資ファンド* : 9,000億円 (22年10月変更決定)

*共同投資ファンドについて、20年の設立時に比べ、国内市場で大型案件が増加傾向にあり、JICとして取り組む政策的意義のある案件が含まれ得ることに対応すべく、増額

VC、スタートアップ分野

- JICとしては、「ディープテック」、「ライフサイエンス」、「プレシード・シード」、「グロース」、「ゴー・グローバル」等の分野が重点分野。今般、新たに「アーリー」も追加。
- 政府の「スタートアップ育成5か年計画（2022年）」等も踏まえつつ、引き続きVC・スタートアップへの支援に取り組む。

JIC:

- 今後、ユニコーンベンチャー創出に向けたアーリー段階での成長支援を意識し、ディープテック領域以外に注力するファンドも含め検討。
- 2050年への期限延長を踏まえて、長期的なエコシステムへの貢献として、ファンドマネジャーの育成及び起業家の育成を志向。
具体的には、投資先海外著名VCとの協業によるアクセラレーションプログラムの実施やファンドマネジャーの探索。



JIC VGI:

- 24年度はディープテックスタートアップへの投資も含めて新規投資23件（投資額：約198億円）、累計90件（累計投資額：約1,141億円）へ投資実行。5件のIPO、1件のM&A、1件の株式譲渡など、投資先のIPOやM&Aが着実に進む。（25年3月末時点）
- 4月以降、VGF2号より、創薬分野への成長資金供給として、大原薬品工業に出資決定。政府の地方創生や中堅企業支援の動きにも資するもの。



大原薬品工業（HPより）

PE分野

- ・JICキャピタルによるバイアウト・ラージグロース分野のPE投資を中心に、産業競争力強化に貢献

JICキャピタルによる投資先



JSR株式会社：
構造改革、業界再編を通じた成長戦略の実行を支援。ライフサイエンス事業について構造改革の支援を行い、再編の主眼でもあるデジタルソリューション事業が堅調に推移していることを踏まえ、JSRの取組を支援。



新光電気工業株式会社：
25年3月TOB成立、6月には非公開化（取引）が完了し、JICCからも役員を派遣。
先進半導体パッケージ分野の事業化を強力に支援し、日本の半導体産業の国際的な競争力強化への貢献を目指す。



Astemo株式会社：
25年4月1日から商号を日立Astemoから「Astemo」に変更。モビリティの電動化やSDV時代におけるリーディングカンパニーをめざし、事業強化と持続的な企業価値向上を図る。



株式会社トプコン：
25年3月、MBOの実施にむけ、JICCがKKRと共同での資本参画を公表。7月29日よりTOB開始、国内ハードウェア企業によるグローバル市場でのソリューション企業へのビジネストランスフォーメーションとしての成功事例創出を目指す。

エンゲージメントファンド

ビジネス環境が大きく変化する中、エンゲージメントファンドへの資金的なサポートを行うことで、国際競争力を持ちうる分野で事業を行う上場企業の株主となり、中長期かつ建設的・友好的な対話・支援活動によって事業再編や成長投資による新規事業創造を促進。

投資実績：



2025年3月 JACへ出資約束

バイアウトファンドの課題

- 企業価値向上に係る市場の圧力の中で、国内事業会社においても、事業再編等の必要性が増大するとともに、案件の規模も拡大。他方で、大型案件を支援することができる民間ファンドの数は限定的。事業会社の取組促進のためにも、プレーヤーの多様化が必要。
- また、設備投資額が大きい製造業やGX/DX分野企業等での大規模な成長投資、事業再編や新規事業創出等の経営改革を進めるためのリスクマネー供給は未だ不十分。
- こうした状況を踏まえ、
 - ① JICとして大型バイアウトファンドへの投資方針を策定。
 - ② JICCにおける2号ファンドの組成を決定。（総額：8,000億円、組成は本年秋頃予定）

- 運用期限の延長等を踏まえ、JICグループ全体で議論し、新しいミッション、ビジョン、バリューを策定。

- Mission : JICグループの経営理念（我々は、何を社会にもたらしたいのか）**

「未来に投資し、日本を拓く」

JICグループは、投資活動を通じて日本の産業競争力を強化し、日本の“これから”を切り拓きます。

- Vision : JICグループの目指す姿（我々は、Mission実現のため、どういう存在であるべきか）**

「日本のリスクマネーの好循環の原動力となる」

JICグループは、産業競争力強化に向けた投資を通じて、企業の価値向上を支援します。

また、投資活動や人材・知識の供給を通じ、投資を巡るエコシステムの拡大に貢献します。

- Value : JICグループの行動規範（我々は、Mission・Vision実現のため、どう行動するのか）**

JICグループの役職員は、高度な倫理観を持って以下の行動規範を遵守し、高いパフォーマンスを発揮することに努めます。

- 誠実さと規律ある行動 Integrity & Discipline**

私たちは、政策課題・社会課題の解決に貢献する投資機関として、公共的使命を担っていることを自覚し、全ての企業活動において、高い自己規律を持って、公正かつ誠実な姿勢で臨みます。

- 卓越した専門家としての矜持と挑戦 Excellence & Professionalism**

私たちは、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、高い専門性と経験を活かして業務にあたり、ミッションの達成に挑戦します。

- 責務の遂行と説明責任 Accountability & Responsibility**

私たちは、一人ひとりが自身と組織の役割を理解し、行動や結果に責任を持って企業活動を行います。

- 相互の信頼とチームワークに基づく成果の最大化 Respect & Teamwork**

私たちは、ミッションの達成に向けて、互いを尊重し、知識やアイデアを結集し、チームとして力を発揮します。

- 多様な個性を認め合う組織 Diversity, Equity & Inclusion**

私たちは、互いの違いを認め合い、誰もが活躍できるよう公平な機会や場を提供し、多様な価値観や才能を活かしながら、新たな価値を創造します。

DE&Iの推進

- ・ リスクマネーの好循環の実現を通じ日本経済の持続的成長に貢献するため、環境整備の一環として、リスクマネーを巡るエコシステムにおけるDE&Iを推進。
- ・ 2025年は、これまでに検討・議論を行ってきた取組を実装するフェーズとして、JICグループ全体で取り組む。

社内の取組

- 育休等からの復帰後職員の支援制度
- 女性活躍推進のための定期ヒアリング制度
- ライフイベント関連の社内制冊子等の作成
- 多様性に関する研修の実施
- 管理職要件の言語化
及び女性職員の育成と計画的昇進
- 女性活躍推進に向けた社内制度の拡充
- グループ職員の働き方等の発信
- 投資先ファンドの女性割合HP掲載

など12項目を検討・実施

グループ職員の働き方等の発信

座談会の実施

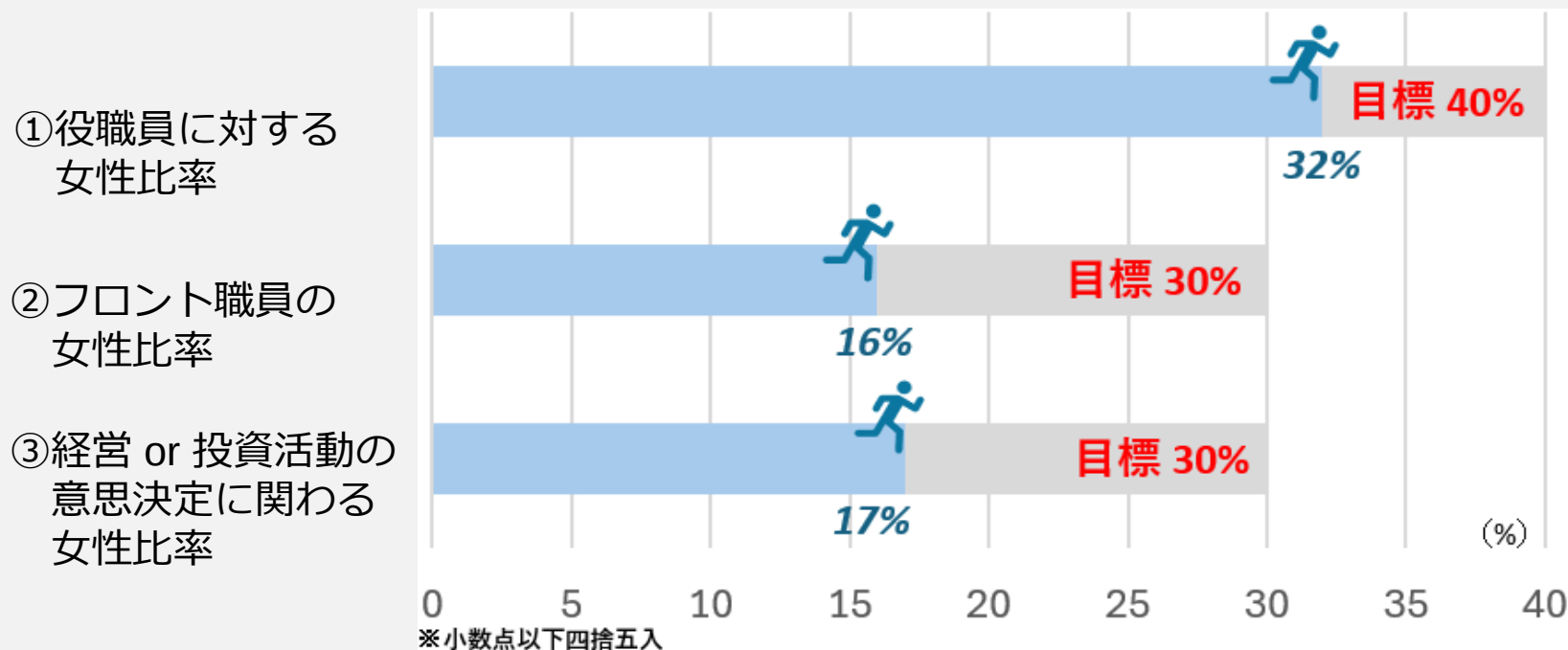


[【連載】社員座談会 第1回 JICを選んだ理由 | JIC JAPAN INVESTMENT CORPORATION](#)

JICにおける女性活躍の推進

- ・ JICは、経営戦略の一環として、D E & Iの中でも、まずは女性活躍の推進に注力。
- ・ JICグループ全体の構成として、以下の目標を掲げている
 - (1)2030年までに、グループ全体における女性比率を40%以上
 - (2)2030年までに、グループ全体におけるフロント職員の女性比率を30%以上
 - (3)2030年までに、グループ全体における
経営あるいは投資活動における意思決定に関わる者の女性比率を30%以上

JICグループの現状（2025年7月1日時点）



- ・ JICグループとしては、引き続き目標達成に向けてグループ全体で女性活躍の推進に取り組む。

ファンド業界における女性活躍の推進

- ・ JICは、日本のファンド業界における女性活躍の推進も働きかけている。

(1)10年後に投資先ファンド全体で女性の投資担当者が40%

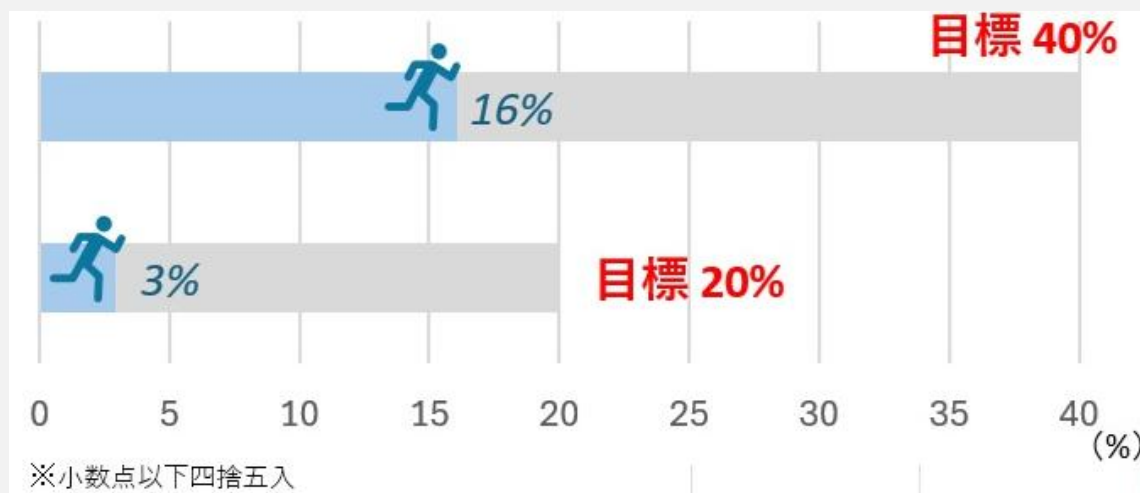
(2)10年後に投資先ファンド全体で意思決定者に女性を含むファンドを全体の20%

の目標実現を掲げ、現状把握のために、全投資先ファンドを対象にモニタリングを実施。

投資先モニタリング結果（2024年12月末時点）

①女性投資
担当者

②女性の投資
意思決定者※1



- ・ モニタリング結果は、国内投資先ファンド※2における女性投資担当者比率は16%、国内投資先ファンド全体で女性の投資意思決定者の比率は3%。

- ・ JICとしては、引き続き投資先ファンドに対して女性活躍の推進を働きかけていく。

※1 国内投資先運用会社数に対する、女性の投資意思決定者が所属する運用会社数の割合

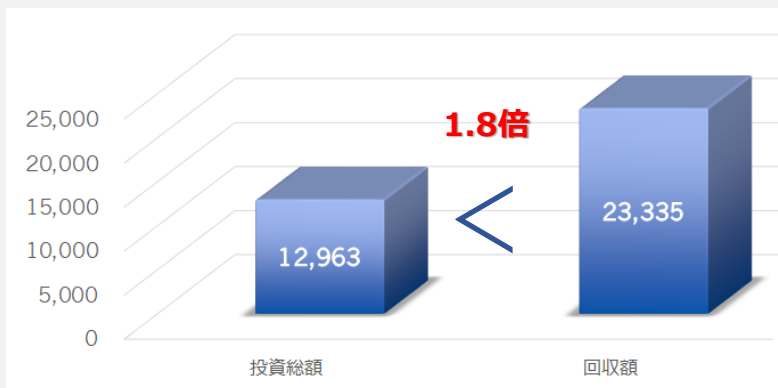
※2 国内投資先ファンドは国内に投資拠点を有するファンドを指す

INCJレガシーの継承

・総括

- 2009年から累計144件の投資・EXITを実施
- 約1兆円の利益を確保
- 「オープンイノベーションを通じた次世代の国富を担う産業の育成・創出」に貢献したものと評価
- 今後は速やかに解散に向けた手続を進める

INCJ投資回収



注) 投資のコストおよびリターンをより厳密に評価するため、「投資総額」は出資・貸付実額に付随経費を加えた額とし、「回収額」は配当・利息等収益を加えた額としている。

・INCJシンポジウム開催：

7月1日、経済産業研究所（RIETI）及び日本ベンチャー学会（JASVE）と共催で、活動を総括するシンポジウムを実施。

- アカデミアによるINCJの分析研究報告
- 関係者の対談等

・JICへの人材・ノウハウ継承：

個々のEXIT案件の振り返り等を通じ、産業育成投資における知見集積を図り、JICグループの各ファンドに対して、人材及びノウハウを共有・継承。

- Knowledge Community等